

令和4年5月16日（月）

令和4年度 第1回志布志市総合教育会議
資 料

【目次】

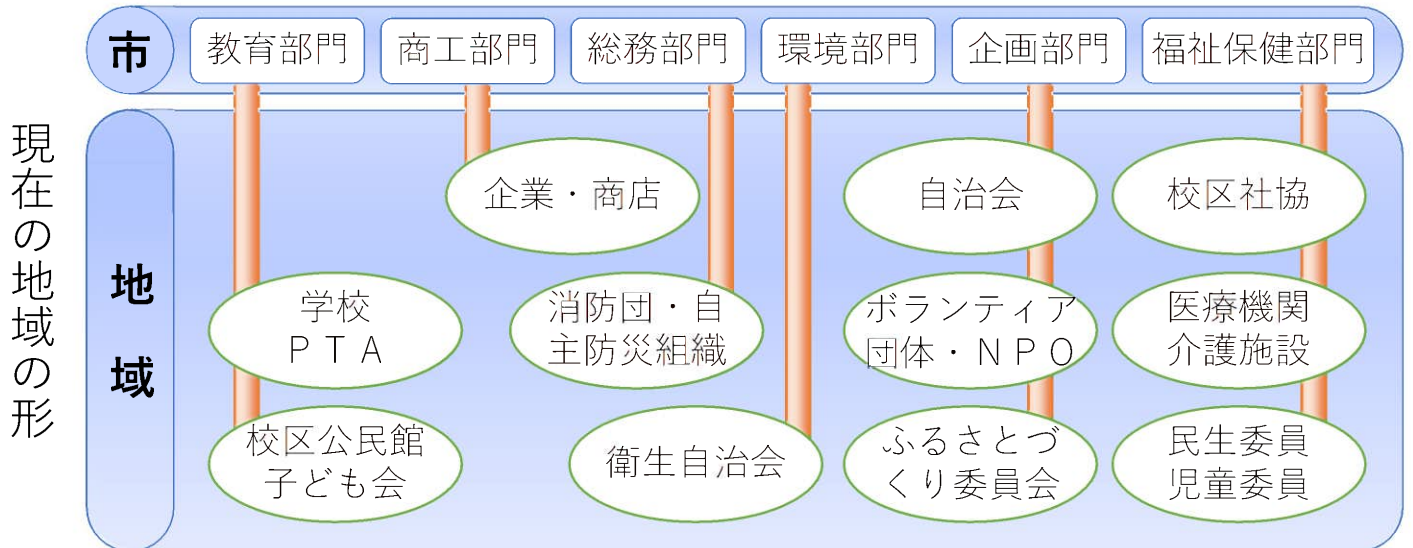
1 協議資料

- (1) 地域コミュニティ協議会の設立推進について・・・P1
- (2) 小規模校入学特別認可制度に係るスクールタクシー・・・P3
の見直しについて(案)
- (3) 令和4年度に取り組む学校の在り方検討について(案)・・・P7

新しい地域づくりに向けて

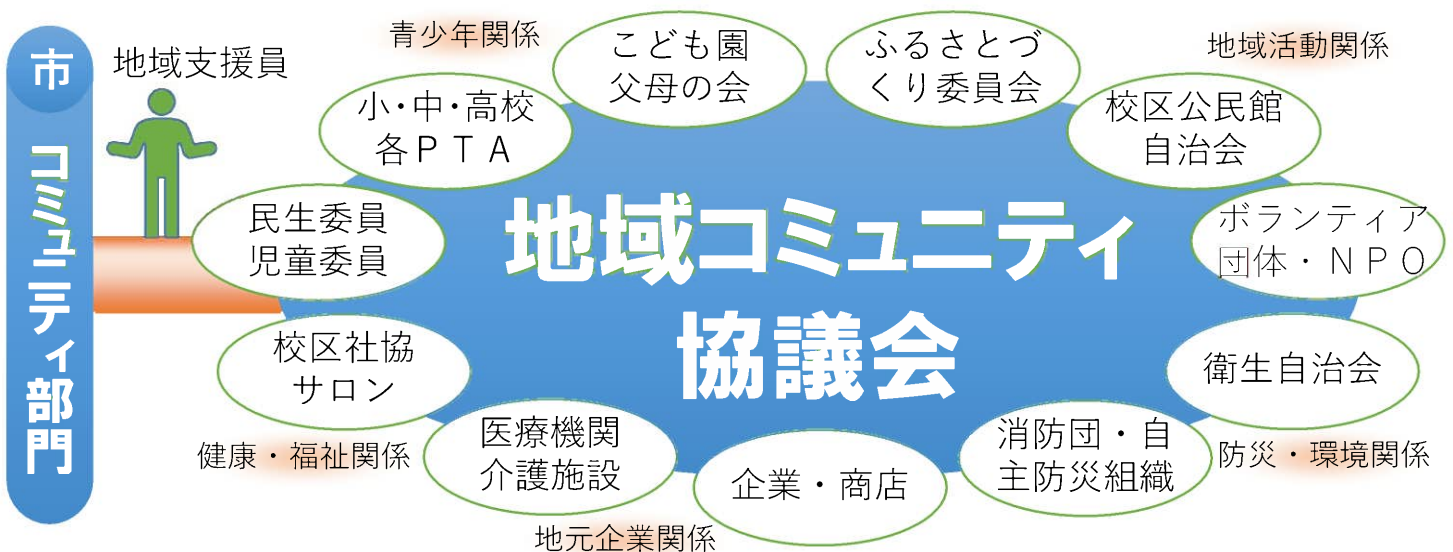
市では、令和5年度末までに市内全域で「**地域コミュニティ協議会**」の設立を推進しています！

人口減少や少子高齢化などに対応しながら、市民の皆様が10年後も各地区で楽しく暮らせるように、各地区が存続できるように、地域づくりについて今一度見つめ直し、新しい組織の形を市民の皆様と一緒に検討しています



各地区の良いところや共通の課題を整理しつつ、校区公民館や自治会を中心に、地域内の色々な団体や企業などに声をかけ、それぞれの得意分野を活かした活動ができるように、横のつながりを見直し、もう一つ大きな枠組みで新しい組織を立ち上げます

地域と市との連携を高めるため、市役所内の地域の窓口をまとめます
新たに「地域支援員」を地域と市のパイプ役として配置します



この取組みにより、志布志市と地域コミュニティ協議会は地域課題を共有し、その解決に向けて対等な立場で、お互いに協力し合うことを目指します！

■ 共生・協働の地域づくり推進に係る全体スケジュール

R4.4.17現在

年度	H30			R1			R2			R3			R4			R5			R6					
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
モデル事業	新橋	R1.7.9～R2.9.16 計6回開催	企																					
志布志市に合った新たなコミュニティの在り方をモデル的に研究	潤ヶ野	R1.9.19～R2.9.24 計5回開催	企																					
	通山	H30.8.21～R2.2.18 計7回開催	企																					
モデル事業報告書		共生協働推進委員会へ渡りながら作成 コミュニティ協議会の設立が必 要との結果を市長へ報告																						
地域支援員		補償委員会等話し合いの支援、設立された協議会の活動支援のため任用																						
共生・協働の地域づくり指針		共生協働推進委員会・市公連へ諮りながら作成																						
コミュニティづくりガイドブック		企画政策課で作成、印刷発注																						
コミュニティ振興課の設置		地域コミュニティ協議会の窓口を1本化																						
設立準備委員会	新橋	R2.10.6～R3.3.23計6回	企																					
令和2年度中に設立に向けた話し合いを実施	潤ヶ野	R2.11.2～R3.3.1計5回	企																					
	通山	R2.7.28～R3.4.20計11回	企																					
	秦野	R3.4.25設立総会 R3.7.15～R4.1.20計5回	志																					
	森山	R4.4.14設立総会 R3.7.27～R4.2.16計6回	志																					
令和3年度中に設立に向けた話し合いを実施	蓬原	R4.3.27設立総会	志																					
	野神	R3.10.26～R4.2.18計5回	志																					
	山重	R4.4.17設立総会 R4.1.22～R4.2.19計4回	志																					
	尾野見	R4.4.16設立総会	志																					
	志布志	志布志区、東区、轄五区、夏井陣笠区の統合	松																					
	八野		志																					
令和4年度中に設立に向けた話し合いを実施	伊崎田		松																					
	有明		有																					
	原田		有																					
	香月		志																					
令和5年度中に設立に向けた話し合いを実施	安楽		志																					
条例制定・改正	田之浦	田之浦、四浦の統合を検討	松																					
共生・協働の地域づくり指針を、「協働のまちづくり条例」として制定																								
公民館条例を修正し、指定管理議案を上げ（関連条例・予算）																								
補助制度見直し		人口政策による基本額と、活動量に応じたメニュー制額へ見直し																						
公民館主事を地域雇用する。人件費分を補助金に上乗せ用へ移行		公民館主事をコミュニティ主事とし、地域が雇用する。人件費分を補助金に上乗せ用へ移行																						
市公連の移管		校区公民館が全てコミュニティ協働へ移行したダイミングで、市公連から市コミュニティ協働へ移管																						

小規模校入学特別認可制度に係るスクールタクシーの見直しについて (案)
教育総務課

当頁については非公開

小規模校入学特別認可制度の沿革

1 訓令及び告示の改正（平成15年度）

- (1) 志布志町立学校の区域を定める規程の一部を改正する訓令（平成15年4月1日）
第1条に次のただし書を加える。

ただし、四浦小学校及び八野小学校の区域には、それぞれの学校区に定める集落のほか、志布志小学校、香月小学校及び安楽小学校の学校区内の集落を含むものとする。

※ 出水中学校については、八野小学校から引き続きということで平成16年度から

- (2) 志布志町教育委員会の所管に関する補助金交付要綱の一部を改正する告示
（平成15年10月1日から施行し、平成15年4月1日から適用）

小規模校入学特別認可制度通学補助金の創設

○公共交通機関を利用 運賃の全額

○保護者の送迎 1キロ当たり37円×通学日数×70%

2 平成15年度

- 八野小2人

母親が八野小学校の学校助手のため、保護者の送迎ということで、補助金要綱の「保護者の送迎 1キロ当たり37円×通学日数×70%」を支給する。

3 平成16年度

- 八野小1人、出水中1人（15年度から継続の2人）

母親が八野小学校の学校助手のため、保護者の送迎ということで、補助金要綱の「保護者の送迎 1キロ当たり37円×通学日数×70%」を支給する。

4 平成17年度

- 八野小学校3人 1人は15・16年度から継続で、保護者の送迎ということで、補助金要綱の「保護者の送迎1キロ当たり37円×通学日数×70%」を支給する。残り2人については、登校は鹿児島交通のバス利用（通学時間がバス時間で間に合ったため、片道の定期代を補助）、下校はタクシー利用（全額町負担。タクシー会社と委託契約）。
- 四浦小2人 バスの時間が合わなかったため、登下校タクシー利用。タクシー料金については、全額町負担。
- 出水中2人 1人は15・16年度から継続で、保護者の送迎ということで、補助金要綱の「保護者の送迎1キロ当たり37円×通学日数×70%」を支給（弟が八野小に通学しているため、1台分を補助）する。残り1人は、保護者が送迎をしていたが、10月に出水中学校区に家を建てたため、4月から10月25日までの期間が保護者の送迎ということで、補助金要綱の「保護者の送迎1キロ当たり37円×通学日数×70%」を支給する。

5 平成18年度（3町合併）

- 四浦小5人（往復タクシー利用）
八野小4人（往路 鹿児島交通バス、復路 タクシー利用）
※ バスが11月廃止。以後、登下校タクシー送迎。
- 出水中2人（保護者の送迎）

6 平成19年度（以後、小学校については、全てタクシー送迎）

- 四浦小4人、八野小3人
- 出水中1人（保護者の送迎）

7 平成20年度（四浦小休校）

- 八野小5人

8 平成21年度

- 八野小8人

9 平成22年度

- 八野小7人

10 平成23年度（八野小閉校）

- 特認校生0人

11 平成24年度（地元の要望により田之浦小追加）

- 田之浦小2人

12 平成25年度

- 田之浦小4人

13 平成26年度（田之浦中・出水中閉校）

- 田之浦小4人

14 平成27年度（四浦小閉校）

- 田之浦小2人

15 平成28年度（小規模校入学特別認可制度規則制定、地元の要望により森山小・潤ヶ野小追加）

- 田之浦小1人、潤ヶ野小8人

16 平成29年度

- 田之浦小6人、森山小1人、潤ヶ野小9人

17 平成30年度（地元から田之浦小への支援要望を受け有明小・通山小拡充、規則に派遣元の学級編成影響時不許可要件規定）

- 田之浦小10人、森山小4人、潤ヶ野小15人

18 令和元年度

- 田之浦小14人、森山小5人、潤ヶ野小20人

19 令和2年度

- 田之浦小15人、森山小7人、潤ヶ野小23人

20 令和3年度

- 田之浦小11人、森山小9人、潤ヶ野小23人

21 令和4年度

- 田之浦小22人、森山小10人、潤ヶ野小22人

○ 特認校生数の推移

学校名	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
四浦小	—	—	2人	5人	4人	休校	休校	休校
八野小	2人	1人	3人	4人	3人	5人	8人	7人
出水中		1人	2人	2人	1人	—	—	—
計	2人	2人	7人	11人	8人	5人	8人	7人

学校名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
四浦小	休校	休校	休校	休校				
八野小								
出水中	—	—	—					
田之浦小		2人	4人	4人	2人	1人	6人	10人
森山小						—	1人	4人
潤ヶ野小						8人	9人	15人
計	0人	2人	4人	4人	2人	9人	16人	29人

※田之浦小
追加

※森山小
潤ヶ野小追加

学校名	元年度	2年度	3年度	4年度
四浦小				
八野小				
出水中				
田之浦小	14人	15人	11人	22人
森山小	5人	7人	9人	10人
潤ヶ野小	20人	23人	23人	22人
計	39人	45人	43人	54人

○ スクールタクシー運行状況

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
ジャンボ	—	—	2台	3台	4台	4台	4台	4台
普通タクシー	1台	3台	—	1台	2台	2台	2台	2台
委託料	700千円	2,116千円	3,452千円	5,459千円	8,799千円	11,334千円	11,067千円	11,235千円
特認校生数	2人	9人	16人	29人	39人	45人	43人	54人
1人当たり費用	350千円	236千円	216千円	189千円	226千円	252千円	257千円	268千円

※ 令和4年度は予算額（1人当たり費用は、利用人数の42人で除したもの）

令和4年度に取り組む学校の在り方検討について（案）

教育総務課

令和4年度に取り組む学校の在り方検討については、次の事項を予定しています。

1 学校の在り方に関し各小学校の意見を聴く

児童・生徒数の推移を見たときに、直ちに影響のある小学校の在り方から検討することとし、まずは、各小学校の校長先生やPTAの役員の方々に、学校ごとの今後の子ども人数の推移等を示し、学校の在り方に関して率直な意見を聴きます。

2 各小学校の意見を基にした総合教育会議の開催

各小学校の意見を受け、総合教育会議で今後の検討方針を協議します。

※ 必要があれば、保護者アンケートを実施します。

3 次年度以降の学校の在り方検討についてロードマップ作成

予算面を含め、今後行うべき取組を整理し、学校の在り方検討について大まかなロードマップを作成します。

4 その他

総合教育会議を適宜開催し、市長部局との情報共有や連携強化に努めます。

○今後の児童・生徒数の推移について

志布志市教育委員会

令和4年4月1日現在の現状値

松山小	1年	14	1	安楽小	1年	46	2	通山小	1年	30	1	伊崎田小	1年	12	1	
	2年	9	1		2年	44	2		2年	12	1		2年	10	1	
	3年	12	1		3年	41	2		3年	29	1		3年	13	1	
	4年	12	1		4年	49	2		4年	19	1		4年	13	1	
	5年	14	1		5年	32	1		5年	27	1		5年	16	1	
	6年	16	1		6年	35	1		6年	16	1		6年	12	1	
	合計	77	6		合計	247	10		合計	133	6		合計	76	6	
泰野小	1年	4	1	潤ヶ野小	1年	5	1	原田小	1年	6	1	小学校計	1年	281		
	2年	12	1		2年	3	0		2年	6	1		2年	273		
	3年	7	1		3年	6	1		3年	12	1		3年	297		
	4年	10	1		4年	8	1		4年	8	1		4年	310		
	5年	6	1		5年	4	1		5年	5	1		5年	280		
	6年	10	1		6年	5	1		6年	7	1		6年	301		
	合計	49	5		合計	31	3		合計	44	5		合計	1,742	99	
尾野見小	1年	15	1	森山小	1年	2	1	蓬原小	1年	10	1	松山中	1年	34	1	
	2年	12	1		2年	1	1		2年	7	1		2年	30	1	
	3年	12	1		3年	1	1		3年	22	1		3年	35	1	
	4年	9	1		4年	0	0		4年	13	1		合計	99	3	
	5年	16	1		5年	6	1		5年	8	1		志布志中	1年	126	3
	6年	8	1		6年	3	1		6年	18	1		2年	123	3	
	合計	72	6		合計	13	3		合計	78	6		3年	135	4	
志布志小	1年	50	2	田之浦小	1年	3	1	野神小	1年	20	1	有明中	合計	384	10	
	2年	50	2		2年	5	1		2年	13	1		1年	51	2	
	3年	47	2		3年	3	1		3年	23	1		2年	61	2	
	4年	51	2		4年	4	1		4年	25	1		3年	53	2	
	5年	42	1		5年	7	1		5年	21	1		合計	165	6	
	6年	45	2		6年	10	1		6年	31	1		1年	42	1	
	合計	285	11		合計	32	4		合計	133	6		2年	56	2	
香月小	1年	37	2	有明小	1年	21	1	山重小	1年	6	1	宇都中	3年	46	2	
	2年	51	2		2年	28	1		2年	10	1		合計	144	5	
	3年	33	1		3年	29	1		3年	7	1		1年	15	1	
	4年	45	2		4年	30	1		4年	14	1		2年	14	1	
	5年	52	2		5年	20	1		5年	4	1		3年	11	1	
	6年	55	2		6年	24	1		6年	6	1		合計	40	3	
	合計	273	11		合計	152	6		合計	47	5		伊崎田中	1年	268	8
									中学校計	2年	284	9				
										3年	280	10				
										合計	832	27				

※1 特別支援学級の児童・生徒数を含む。

※2 学級数から特別支援学級数を除く。

児童数の推計(住民基本台帳に基づく)

R4.4.12 現在

就学年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		合計
誕生日	H28.4.2~H29.4.1生	H29.4.2~H30.4.1生	H30.4.2~H31.4.1生	H31.4.2~R2.4.1生	R2.4.2~R3.4.1生	R3.4.2~R4.4.1生		
志布志小	45	55	40	40	37	39		256
香月小	43	46	39	42	33	37		240
安楽小	29	47	27	33	26	26		188
森山小	0	1	0	0	1	0		2
田之浦小	1	1	0	3	3	0		8
潤ヶ野小	3	0	1	3	2	3		12
志布志町計	121	150	107	121	102	105	0	706
伊崎田小	8	7	5	6	3	2		31
有明小	23	23	26	18	13	13		116
通山小	28	25	29	31	25	24		162
蓬原小	15	6	11	9	3	5		49
野神小	8	18	14	13	7	6		66
原田小	6	7	5	8	7	5		38
山重小	11	10	6	4	3	5		39
有明町計	99	96	96	89	61	60	0	501
松山小	9	9	5	8	3	7		41
泰野小	9	7	3	4	4	2		29
尾野見小	4	9	8	6	8	6		41
松山町計	22	25	16	18	15	15	0	111
志布志市計	242	271	219	228	178	180	0	1,318

地区別児童・生徒数の推移
(令和4年4月1日現在からの推計)

中学校全体													令和4年度と10年度の比較	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度						生徒数	割合
1年	268	8 301	9 280	9 310	10 297	10 273	8 281	10					13	4.9%
2年	284	9 268	8 301	9 280	9 310	10 297	10 273	8					△ 11	-3.9%
3年	280	10 284	9 268	8 301	9 280	9 310	10 297	10					17	6.1%
合計	832	27 853	26 849	26 891	28 887	29 880	28 851						19	2.3%

小学校全体													令和4年度と10年度の比較	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度						児童数	割合
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生							
1年	281	242	271	219	228	178	180						△ 101	-35.9%
2年	273	281	242	271	219	228	178						△ 95	-34.8%
3年	297	273	281	242	271	219	228						△ 69	-23.2%
4年	310	297	273	281	242	271	219						△ 91	-29.4%
5年	280	310	297	273	281	242	271						△ 9	-3.2%
6年	301	280	310	297	273	281	242						△ 59	-19.6%
合計	1,742	99 1,683	97 1,674	98 1,583	96 1,514	92 1,419	89 1,318	82					△ 424	-24.3%

松山地区小学校全体													令和4年度と10年度の比較	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度						児童数	割合
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生							
1年	33	22	25	16	18	15	15						△ 18	-54.5%
2年	33	33	22	25	16	18	15						△ 18	-54.5%
3年	31	33	33	22	25	16	18						△ 13	-41.9%
4年	31	31	33	33	22	25	16						△ 15	-48.4%
5年	36	31	31	33	33	22	25						△ 11	-30.6%
6年	34	36	31	31	33	33	22						△ 12	-35.3%
合計	198	17 186	17 175	17 160	14 147	14 129	12 111						△ 87	-43.9%

志布志地区小学校全体													令和4年度と10年度の比較	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度						児童数	割合
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生							
1年	143	121	150	107	121	102	105						△ 38	-26.6%
2年	154	143	121	150	107	121	102						△ 52	-33.8%
3年	131	154	143	121	150	107	121						△ 10	-7.6%
4年	157	131	154	143	121	150	107						△ 50	-31.8%
5年	143	157	131	154	143	121	150						7	4.9%
6年	153	143	157	131	154	143	121						△ 32	-20.9%
合計	881	42 849	42 856	41 806	41 796	40 744	39 706	36					△ 175	-19.9%

有明地区小学校全体													令和4年度と10年度の比較	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度						児童数	割合
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生							
1年	105	99	96	96	89	61	60						△ 45	-42.9%
2年	86	105	99	96	96	89	61						△ 25	-29.1%
3年	135	86	105	99	96	96	89						△ 46	-34.1%
4年	122	135	86	105	99	96	96						△ 26	-21.3%
5年	101	122	135	86	105	99	96						△ 5	-5.0%
6年	114	101	122	135	86	105	99						△ 15	-13.2%
合計	663	40 648	38 643	40 617	38 571	38 546	36 501	34					△ 162	-24.4%

中学校区別児童・生徒数の推移
(令和4年4月1日現在からの推計)

【志布志中校区】

志布志中														令和4年度と10年度の比較		
	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		生徒数	割合
1年	126	3	153	4	143	4	157	4	131	4	154	4	143	4	17	13.5%
2年	123	3	126	3	153	4	143	4	157	4	131	4	154	4	31	25.2%
3年	135	4	123	3	126	3	153	4	143	4	157	4	131	4	△ 4	-3.0%
合計	384	10	402	10	422	11	453	12	431	12	442	12	428	12	44	11.5%

志布志小

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	50	2	45	2	55	2	40	2	40	2	37	2	39	2	△ 11	-22.0%
2年	50	2	50	2	45	2	55	2	40	2	40	2	37	2	△ 13	-26.0%
3年	47	2	50	2	50	2	45	2	55	2	40	2	40	2	△ 7	-14.9%
4年	51	2	47	2	50	2	50	2	45	2	55	2	40	2	△ 11	-21.6%
5年	42	1	51	2	47	2	50	2	50	2	45	2	55	2	13	31.0%
6年	45	2	42	2	51	2	47	2	50	2	50	2	45	2	0	0.0%
合計	285	11	285	12	298	12	287	12	280	12	267	12	256	12	△ 29	-10.2%

香月小

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	37	2	43	2	46	2	39	2	42	2	33	1	37	2	0	0.0%
2年	51	2	37	2	43	2	46	2	39	2	42	2	33	1	△ 18	-35.3%
3年	33	1	51	2	37	2	43	2	46	2	39	2	42	2	9	27.3%
4年	45	2	33	1	51	2	37	2	43	2	46	2	39	2	△ 6	-13.3%
5年	52	2	45	2	33	1	51	2	37	2	43	2	46	2	△ 6	-11.5%
6年	55	2	52	2	45	2	33	1	51	2	37	2	43	2	△ 12	-21.8%
合計	273	11	261	11	255	11	249	11	258	12	240	11	240	11	△ 33	-12.1%

安楽小

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	46	2	29	1	47	2	27	1	33	1	26	1	26	1	△ 20	-43.5%
2年	44	2	46	2	29	1	47	2	27	1	33	1	26	1	△ 18	-40.9%
3年	41	2	44	2	46	2	29	1	47	2	27	1	33	1	△ 8	-19.5%
4年	49	2	41	2	44	2	46	2	29	1	47	2	27	1	△ 22	-44.9%
5年	32	1	49	2	41	2	44	2	46	2	29	1	47	2	15	46.9%
6年	35	1	32	1	49	2	41	2	44	2	46	2	29	1	△ 6	-17.1%
合計	247	10	241	10	256	11	234	10	226	9	208	8	188	7	△ 59	-23.9%

潤ヶ野小

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	5	1	3	1	0	0	1	1	3	1	2	1	3	1	△ 2	-40.0%
2年	3	0	5	1	3	1	0	0	1	1	3	1	2	1	△ 1	-33.3%
3年	6	1	3	0	5	1	3	1	0	0	1	1	3	1	△ 3	-50.0%
4年	8	1	6	1	3	0	5	1	3	1	0	0	1	1	△ 7	-87.5%
5年	4	1	8	1	6	1	3	0	5	1	3	1	0	0	△ 4	-100.0%
6年	5	1	4	1	8	1	6	1	3	0	5	1	3	1	△ 2	-40.0%
合計	31	3	29	3	25	2	18	3	15	2	14	3	12	3	△ 19	-61.3%

森山小

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生		H28年度生		H29年度生		H30年度生		R1年度生		R2年度生		R3年度生		児童数	割合
1年	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	△ 2	-100.0%
2年	1	1	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0.0%
3年	1	1	1	1	2	1	0	1	1	1	0	0	0	1	△ 1	-100.0%
4年	0	0	1	1	1	1	2	2	0	0	1	1	0	1	0	—
5年	6	1	0	0	1	1	1	1	2	1	0	1	1	1	△ 5	-83.3%
6年	3	1	6	1	0	0	1	1	1	1	2	1	0	0	△ 3	-100.0%
合計	13	3	10	3	5	2	5	2	4	2	4	2	2	1	△ 11	-84.6%

田之浦小

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生		H28年度生		H29年度生		H30年度生		R1年度生		R2年度生		R3年度生		児童数	割合
1年	3	1	1	1	1	1	0	0	3	1	3	1	0	0	△ 3	-100.0%
2年	5	1	3	1	1	1	1	1	0	0	3	1	3	1	△ 2	-40.0%
3年	3	1	5	1	3	1	1	1	1	1	0	0	3	1	0	0.0%
4年	4	1	3	1	5	1	3	1	1	1	1	1	0	0	△ 4	-100.0%
5年	7	1	4	1	3	1	5	1	3	1	1	1	1	1	△ 6	-85.7%
6年	10	1	7	1	4	1	3	1	5	1	3	1	1	1	△ 9	-90.0%
合計	32	4	23	3	17	3	13	3	13	3	11	3	8	2	△ 24	-75.0%

志布志中校区小学校全体

	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生		H28年度生		H29年度生		H30年度生		R1年度生		R2年度生		R3年度生		児童数	割合
1年	143		121		150		107		121		102		105		△ 38	-26.6%
2年	154		143		121		150		107		121		102		△ 52	-33.8%
3年	131		154		143		121		150		107		121		△ 10	-7.6%
4年	157		131		154		143		121		150		107		△ 50	-31.8%
5年	143		157		131		154		143		121		150		7	4.9%
6年	153		143		157		131		154		143		121		△ 32	-20.9%
合計	881	42	849	42	856	41	806	41	796	40	744	39	706	36	△ 175	-19.9%

中学校区別児童・生徒数の推移
(令和4年4月1日現在からの推計)

【松山中校区】

松山中											令和4年度と10年度の比較	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	生徒数	割合			
1年	34	34	36	31	31	33	33	△ 1	-2.9%			
2年	30	34	34	36	31	31	33	3	10.0%			
3年	35	30	34	34	36	31	31	△ 4	-11.4%			
合計	99	98	104	101	98	95	97	△ 2	-2.0%			

松山小

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合
1年	14	9	9	5	8	3	7	△ 7	-50.0%
2年	9	14	9	9	5	8	3	△ 6	-66.7%
3年	12	9	14	9	9	5	8	△ 4	-33.3%
4年	12	12	9	14	9	9	5	△ 7	-58.3%
5年	14	12	12	9	14	9	9	△ 5	-35.7%
6年	16	14	12	12	9	14	9	△ 7	-43.8%
合計	77	70	65	58	54	48	41	△ 36	-46.8%

泰野小

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合
1年	4	9	7	3	4	4	2	△ 2	-50.0%
2年	12	4	9	7	3	4	4	△ 8	-66.7%
3年	7	12	4	9	7	3	4	△ 3	-42.9%
4年	10	7	12	4	9	7	3	△ 7	-70.0%
5年	6	10	7	12	4	9	7	1	16.7%
6年	10	6	10	7	12	4	9	△ 1	-10.0%
合計	49	48	49	42	39	31	29	△ 20	-40.8%

尾野見小

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合
1年	15	4	9	8	6	8	6	△ 9	-60.0%
2年	12	15	4	9	8	6	8	△ 4	-33.3%
3年	12	12	15	4	9	8	6	△ 6	-50.0%
4年	9	12	12	15	4	9	8	△ 1	-11.1%
5年	16	9	12	12	15	4	9	△ 7	-43.8%
6年	8	16	9	12	12	15	4	△ 4	-50.0%
合計	72	68	61	60	54	50	41	△ 31	-43.1%

松山中校区小学校全体

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合
1年	33	22	25	16	18	15	15	△ 18	-54.5%
2年	33	33	22	25	16	18	15	△ 18	-54.5%
3年	31	33	33	22	25	16	18	△ 13	-41.9%
4年	31	31	33	33	22	25	16	△ 15	-48.4%
5年	36	31	31	33	33	22	25	△ 11	-30.6%
6年	34	36	31	31	33	33	22	△ 12	-35.3%
合計	198	186	175	160	147	129	111	△ 87	-43.9%

中学校区別児童・生徒数の推移
(令和4年4月1日現在からの推計)

【有明中校区】

	令和4年度と10年度の比較										生徒数	割合				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度									
1年	51	2	40	1	47	2	49	2	58	2	40	1	51	2	0	0.0%
2年	61	2	51	2	40	1	47	2	49	2	58	2	40	1	△ 21	-34.4%
3年	53	2	61	2	51	2	40	1	47	2	49	2	58	2	5	9.4%
合計	165	6	152	5	138	5	136	5	154	6	147	5	149	5	△ 16	-9.7%

有明小

	令和4年度と10年度の比較										児童数	割合				
	令和4年度 H20年度生	令和5年度 H28年度生	令和6年度 H29年度生	令和7年度 H30年度生	令和8年度 R1年度生	令和9年度 R2年度生	令和10年度 R3年度生									
1年	21	1	23	1	23	1	26	1	18	1	13	1	13	1	△ 8	-38.1%
2年	28	1	21	1	23	1	23	1	26	1	18	1	13	1	△ 15	-53.6%
3年	29	1	28	1	21	1	23	1	23	1	26	1	18	1	△ 11	-37.9%
4年	30	1	29	1	28	1	21	1	23	1	23	1	26	1	△ 4	-13.3%
5年	20	1	30	1	29	1	28	1	21	1	23	1	23	1	3	15.0%
6年	24	1	20	1	30	1	29	1	28	1	21	1	23	1	△ 1	-4.2%
合計	152	6	151	6	154	6	150	6	139	6	124	6	116	6	△ 36	-23.7%

通山小

	令和4年度と10年度の比較										児童数	割合				
	令和4年度 H20年度生	令和5年度 H28年度生	令和6年度 H29年度生	令和7年度 H30年度生	令和8年度 R1年度生	令和9年度 R2年度生	令和10年度 R3年度生									
1年	30	1	28	1	25	1	29	1	31	1	25	1	24	1	△ 6	-20.0%
2年	12	1	30	1	28	1	25	1	29	1	31	1	25	1	13	108.3%
3年	29	1	12	1	30	1	28	1	25	1	29	1	31	1	2	6.9%
4年	19	1	29	1	12	1	30	1	28	1	25	1	29	1	10	52.6%
5年	27	1	19	1	29	1	12	1	30	1	28	1	25	1	△ 2	-7.4%
6年	16	1	27	1	19	1	29	1	12	1	30	1	28	1	12	75.0%
合計	133	6	145	6	143	6	153	6	155	6	168	6	162	6	29	21.8%

有明中校区小学校全体

	令和4年度と10年度の比較										児童数	割合				
	令和4年度 H20年度生	令和5年度 H28年度生	令和6年度 H29年度生	令和7年度 H30年度生	令和8年度 R1年度生	令和9年度 R2年度生	令和10年度 R3年度生									
1年	51		51		48		55		49		38		37		△ 14	-27.5%
2年	40		51		51		48		55		49		38		△ 2	-5.0%
3年	58		40		51		51		48		55		49		△ 9	-15.5%
4年	49		58		40		51		51		48		55		6	12.2%
5年	47		49		58		40		51		51		48		1	2.1%
6年	40		47		49		58		40		51		51		11	27.5%
合計	285	12	296	12	297	12	303	12	294	12	292	12	278	12	△ 7	-2.5%

中学校区別児童・生徒数の推移
(令和4年4月1日現在からの推計)

【宇都中校区】

宇都中	令和4年度と10年度の比較															
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	生徒数		割合						
1年	42	1	62	2	38	1	60	2	64	2	36	1	42	2	0	0.0%
2年	56	2	42	1	62	2	38	1	60	2	64	2	36	1	△ 20	-35.7%
3年	46	2	56	2	42	1	62	2	38	1	60	2	64	2	18	39.1%
合計	144	5	160	5	142	4	160	5	162	5	160	5	142	5	△ 2	-1.4%

原田小

	令和4年度と10年度の比較															
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	児童数		割合						
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	6	1	6	1	7	1	5	1	8	1	7	1	5	1	△ 1	-16.7%
2年	6	1	6	1	6	1	7	1	5	1	8	1	7	1	1	16.7%
3年	12	1	6	1	6	1	6	1	7	1	5	1	8	1	△ 4	-33.3%
4年	8	1	12	1	6	1	6	1	6	1	7	1	5	1	△ 3	-37.5%
5年	5	1	8	1	12	1	6	1	6	1	6	1	7	1	2	40.0%
6年	7	1	5	1	8	1	12	1	6	1	6	1	6	1	△ 1	-14.3%
合計	44	5	43	4	45	5	42	4	38	4	39	4	38	4	△ 6	-13.6%

蓬原小

	令和4年度と10年度の比較															
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	児童数		割合						
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	10	1	15	1	6	1	11	1	9	1	3	1	5	1	△ 5	-50.0%
2年	7	1	10	1	15	1	6	1	11	1	9	1	3	1	△ 4	-57.1%
3年	22	1	7	1	10	1	15	1	6	1	11	1	9	1	△ 13	-59.1%
4年	13	1	22	1	7	1	10	1	15	1	6	1	11	1	△ 2	-15.4%
5年	8	1	13	1	22	1	7	1	10	1	15	1	6	1	△ 2	-25.0%
6年	18	1	8	1	13	1	22	1	7	1	10	1	15	1	△ 3	-16.7%
合計	78	6	75	6	73	6	71	6	58	6	54	6	49	5	△ 29	-37.2%

野神小

	令和4年度と10年度の比較															
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	児童数		割合						
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	20	1	8	1	18	1	14	1	13	1	7	1	6	1	△ 14	-70.0%
2年	13	1	20	1	8	1	18	1	14	1	13	1	7	1	△ 6	-46.2%
3年	23	1	13	1	20	1	8	1	18	1	14	1	13	1	△ 10	-43.5%
4年	25	1	23	1	13	1	20	1	8	1	18	1	14	1	△ 11	-44.0%
5年	21	1	25	1	23	1	13	1	20	1	8	1	18	1	△ 3	-14.3%
6年	31	1	21	1	25	1	23	1	13	1	20	1	8	1	△ 23	-74.2%
合計	133	6	110	6	107	6	96	6	86	6	80	6	66	6	△ 67	-50.4%

山重小

	令和4年度と10年度の比較															
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	児童数		割合						
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	6	1	11	1	10	1	6	1	4	1	3	1	5	1	△ 1	-16.7%
2年	10	1	6	1	11	1	10	1	6	1	4	1	3	1	△ 7	-70.0%
3年	7	1	10	1	6	1	11	1	10	1	6	1	4	1	△ 3	-42.9%
4年	14	1	7	1	10	1	6	1	11	1	10	1	6	1	△ 8	-57.1%
5年	4	1	14	1	7	1	10	1	6	1	11	1	10	1	6	150.0%
6年	6	1	4	1	14	1	7	1	10	1	6	1	11	1	5	83.3%
合計	47	5	52	4	58	5	50	5	47	5	40	4	39	4	△ 8	-17.0%

宇都中校区小学校全体

	令和4年度と10年度の比較															
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	児童数		割合						
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合							
1年	42		40		41		36		34		20		21		△ 21	-50.0%
2年	36		42		40		41		36		34		20		△ 16	-44.4%
3年	64		36		42		40		41		36		34		△ 30	-46.9%
4年	60		64		36		42		40		41		36		△ 24	-40.0%
5年	38		60		64		36		42		40		41		3	7.9%
6年	62		38		60		64		36		42		40		△ 22	-35.5%
合計	302	22	280	20	283	22	259	21	229	21	213	20	192	19	△ 110	-36.4%

中学校区別児童・生徒数の推移
(令和4年4月1日現在からの推計)

【伊崎田中校区】

伊崎田中												令和4年度と10年度の比較	
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	生徒数	割合				
1年	15	12	16	13	13	10	12	△ 3	-20.0%				
2年	14	15	12	16	13	13	10	△ 4	-28.6%				
3年	11	14	15	12	16	13	13	2	18.2%				
合計	40	41	43	41	42	36	35	△ 5	-12.5%				

伊崎田小

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和4年度と10年度の比較	
	H20年度生	H28年度生	H29年度生	H30年度生	R1年度生	R2年度生	R3年度生	児童数	割合
1年	12	8	7	5	6	3	2	△ 10	-83.3%
2年	10	12	8	7	5	6	3	△ 7	-70.0%
3年	13	10	12	8	7	5	6	△ 7	-53.8%
4年	13	13	10	12	8	7	5	△ 8	-61.5%
5年	16	13	13	10	12	8	7	△ 9	-56.3%
6年	12	16	13	13	10	12	8	△ 4	-33.3%
合計	76	72	63	55	48	41	31	△ 45	-59.2%

※年齢3区分別人口の推移(第2次志布志市総合振興計画後期基本計画からの抜粋)

	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		令和2年		令和7年		令和12年		令和17年		令和22年	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
年少人口 (0～14歳)	5,727	15.9%	4,867	14.0%	4,483	13.6%	4,302	13.7%	4,016	13.8%	3,906	14.0%	3,584	13.8%	3,258	13.5%	2,947	13.2%
生産年齢人口 (15～64歳)	20,888	58.1%	19,549	56.3%	18,511	56.1%	16,813	53.4%	14,579	50.1%	13,139	47.2%	11,994	46.2%	11,102	46.0%	10,198	45.8%
老年人口 (65歳以上)	9,349	26.0%	10,282	29.6%	10,008	30.3%	10,364	32.9%	10,513	36.1%	10,801	38.8%	10,368	40.0%	9,751	40.4%	9,124	41.0%
合 計	35,964	100.0%	34,698	100.0%	33,002	100.0%	31,479	100.0%	29,108	100.0%	27,846	100.0%	25,946	100.0%	24,111	100.0%	22,269	100.0%

令和2年までは「国勢調査」、令和7年以降は「日本の地域別将来推計人口」

※合計特殊出生率の推移

	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	出生数	合計特殊出生率	出生数	合計特殊出生率	出生数	合計特殊出生率	出生数	合計特殊出生率	出生数	合計特殊出生率	出生数	合計特殊出生率	出生数	合計特殊出生率	出生数	合計特殊出生率
志布志市	295	2.07	280	2.10	290	2.05	270	2.03	249	1.93	228	1.79	230	1.89	201	
鹿児島県	14,637	1.63	14,236	1.62	14,125	1.70	13,688	1.68	13,209	1.69	12,956	1.70	11,977	1.63		
国		1.43		1.42		1.45		1.44		1.43		1.42		1.36		1.34

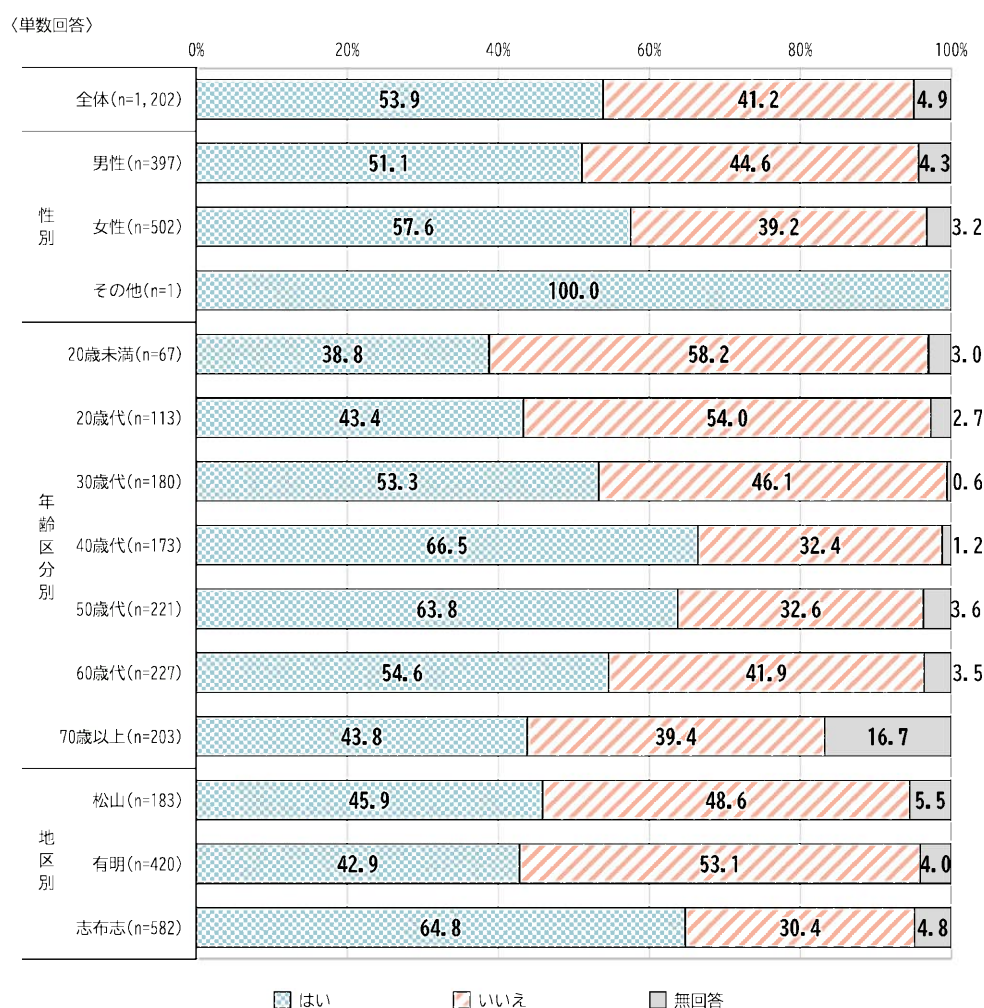
志布志市 市民意識アンケート調査
【調査結果報告書】

【抜粋】

令和3年8月
志布志市 企画政策課

問7（1）特認校制度を知っていますか。あてはまる番号を1つだけ選び、○をつけてください。

- ◇「はい」が53.9%、「いいえ」が41.2%となっています。
- ◇性別でみると、女性の「はい」の割合がわずかに高くなっています。
- ◇年齢区分別でみると、40～50歳代の「はい」の割合が6割を超え高くなっています。
- ◇居住地域別でみると、松山、有明で「いいえ」が高く、志布志で「はい」が高くなっています。



問7（2）特認校制度について、御意見等をお聞かせください。（自由意見）

【肯定的な意見】

- ◇良い制度と思う 48件
- ◇少人数なのでいじめがなさそう 3件
- ◇色々な理由で学校に行けない子供達に別枠が与えられて違った環境で勉強出来たら良い事と思います。
- ◇大きな学校でプレッシャーを感じていた子どもが制度を利用して、なじんでいくという利点もあるし、子どもが増えるということで、その地域が元気になるので、良い制度だと思います。
- ◇大勢の中で遊べる子供と少人数の中でその子らしく生活できる。人はそれぞれだからその子にあった環境で、学べることは素晴らしいと思う。
- ◇親は助かっていると思う。
- ◇家庭内理由における事情等もあると思うので、いい制度と思います。
- ◇環境の特性を生かし、その地域の活性化に繋がるのは素晴らしい取組だと思います。
- ◇感受性豊かな子供達が恵まれた自然を体験する事はとてもいいことだと思う。
- ◇教師が児童に対して目が届く。教師、児童、保護者がゆとりが出る。学習の能率が上がる。
- ◇子どもが希望すれば通学させたいと思っています。とても良い制度だと思う。
- ◇子どもの意志が一番重要なので、小規模校の特性が生かした授業を受けたいと思う子どももいると思うので、特認校制度は良いと思います。
- ◇子どもの減少に伴い特認校制度はいいことと思います。
- ◇子どものためになり、すばらしい制度だと思う。
- ◇子供は自然豊かな環境で育てたほうが良いと思う。
- ◇財政の許す限り存続してほしい制度
- ◇自然環境の中での教育はとても良いと思います。
- ◇自然環境や少人数の学校、教育環境の転換を希望する児童や保護者もいるので、良い制度だと思う。
- ◇自然に囲まれた中で過ごせるのは良い事だと思います。小規模校だと、授業も受けやすく、成績が上がりそうなイメージ。
- ◇自然の多い所でのびのびと学んだり遊んだりできるし、不登校になった子供達も少人数の中だと、登校できるかもと思います。
- ◇自然の中で教育できる事は子供にとって、のびのびできるので良い事だと思います。

- ◇自然の中で少人数で学校生活を送るとするのは、いい経験だと思います。昔はこういうことが普通だったのに、今はこういう場を設けないといけないというのは残念な気がします。
- ◇自然の中で少人数で勉強し、学年関係なくみんなで過ごしてコミュニケーションもとれる。
- ◇自分の個性を大事にできる制度だと思う。
- ◇小規模校にしかできない体験ができて良いと思う。1人1人の個性をいかせる。
- ◇小規模校の少人数、緑あふれる中での充実した教育を受けられて、素晴らしい事と思います。大規模校でないと体験できない事や欠点もありますが、1人1人に目が届き、大規模校に勝る教育だと思います。田舎にも子供の声がひびいて明るくなると思います。
- ◇小規模校は学力向上になると思います。
- ◇小規模校は特認校制度を利用することで、学校の人数も増え、活気も出てきます。その中で、競争心も芽生え、学力向上にもつながっているように感じます。
- ◇小規模にしかないふれあいがあってすごく良いと思います。
- ◇少人数での学校は生徒に目が届きやすく大変良いと思います。
- ◇少人数ではあるが、その分先生方、地域の方と関わりを持ち、色々な体験も出来たりする事ができる。
- ◇少人数のクラスの中で先生の目が行き届き、生徒の個性を引き出すことができるとしても良い制度だと思います。
- ◇素晴らしいと思います。現在、娘も通常の学校区内に通わせていますが、入学時とても悩みましたが「(普通の?通常の?)、地域になんで私は行っていないの?」など、聞かれた時などを考え、成長段階で他校への魅力や選択の権利の勉強にもなるかと思い、通常校へ入学しました。
- ◇送迎がしっかりしていてとても良いと思う。
- ◇それぞれの家庭の考え方があるが、児童数が減っているので希望する人は転学・入学して通学してよいと思う。閉校になると、その地域は増々活気がなくなるのではないのでしょうか。
- ◇多少身体や発育上難のある子供が利用していて、たまに機会があり訪問しますが、先生方の取り組みがすばらしいと感じます。
- ◇多人数の中になじまず、小規模な学級で細やかな指導や、その環境の中で伸び伸びと成長する子供も居ると思われます。特認校制度を更に充実していただきたいと願うものです。
- ◇地域の活性化の為に必要だと思います。
- ◇地域の灯台、守り育ててください
- ◇特にありませんが、特認校の校長をはじめ教職員の熱意を感じます。

- ◇特認校周辺の過疎化を防げると思います。自然の中で学べることが良いと思います。
- ◇特認校制度はとて面白いことだと思います。少しでも多くの友達とふれあい、夢と希望をもって学校生活を楽しんでほしいです。
- ◇とてもいい事だと思います。子供達のがびのび育ってくれたら素晴らしい事。
- ◇とても大事な事だとは思いますが、他の学校挙げられてる5校とも他から見ればとても小さな学校です。十分充実していると思います。むしろあと1人、2人で2学級になれるのに、となると他の学校に行かれると残念。
- ◇とても良い制度。小規模校ならではの体験ができることは貴重。大変なこと・問題もあると思うが、なくさず続けてほしい。
- ◇とても良い制度と思います。是非このまま継続して下さい。
- ◇とても良いと思います。興味はありますが、子供が今の学校好きなので、転学までは考えていません。
- ◇長い人生には、小規模校での学習は規模の大きい学校に比べていろいろな面で得る事が大事であると思います。多くの児童が行けるよう、行ってみたいような工夫を行政も考えて進めて欲しいです。未来ある子どもの為によろしく！
- ◇人との関りが苦手な子供だけでなく、親にとっても良い制度だと思います。
- ◇不登校等になった子が小さい学校で学ぶ事により、引きこもり等の防止になるのではと思うので。これからもこの制度があってほしいと思う。
- ◇過疎化の進む地域でも、学校があるだけで活気が生まれると思う。へき地にとっても有難い制度だと感じる。
- ◇学校が賑やかになるのは良い事だ
- ◇義務教育がちゃんとできているのなら、いいのでは。
- ◇少人数で、1人1人の児童に対して配慮が行き届いた教育ができるのではないかと思います。
- ◇少人数校は、子供時代の経験としておもしろいと思います。ただ、子供（本人）だけでなく、親の協力、思いも大切だと感じています。子供、親、先生、地域の住人、皆が顔と名前を知っている。本当に素晴らしい環境づくりだと思い、続けていただきたい。
- ◇選択肢が増える事は良いことだと思う。
- ◇個人の意思に従います。
- ◇個人の自由で良いと思います。ただし、住んでいる地域の行事には参加すべきだと思います。
- ◇自然がいっぱいある環境で学びたい。
- ◇登下校の不審者に対しても有効である。
- ◇農山村地域の活性化のため、今後も続けて下さい。
- ◇本人が交流を希望されることが一番だと思います。

- ◇昔の農村留学と同じような感じですか？子供が希望するなら体験する事は良いと思います。
- ◇児童数が少ない分いろいろな経験や体験をすることができいいと思います。
- ◇いじめ、差別等の不登校事案及び児童個人の理由等、子供達が毎日楽しく学び、健康的に適切な環境作りに特認校制度を継続、就学児童を持つ父兄に周知して欲しいと思う。
- ◇いじめにあった子や学校になじめない子供が自然の中でのびのび学べる事はいい事だと思う
- ◇最近不登校の子供さん、いじめ等の問題も多々あるので、違う環境でのびのび学校生活が遅れるので賛成です。
- ◇とてもいい制度だと思います。いじめにあった子や不登校の子ども達が利用しやすい場となればいいと思います。
- ◇もし子供が校区小学校でいじめにあったら、逃げ道があるという、そう思うと心強いです。

【制度の充実に関する意見】

- ◇環境に恵まれた場所で学習できる事は素晴らしい。志布志在住の生徒が短期間でもいいので、皆日にちを変えて参加できたらもっといい。
- ◇校区によっては存続もあやしいところもでてきているので、続けていけるようになるといいです。
- ◇子どもが伸び伸びと成長できる環境づくりに心がけてください。
- ◇実験校として、自由な発想を持った校長、職員を民間から登用して、教育改革の一端を担ってほしい。
- ◇市として潤ヶ野、田之浦、森山を残していきたいのであれば、これからも継続して特認校生を募集してもらいたい。残さないのであれば、潤ヶ野、田之浦、森山の子供や地域が喜ぶような取り組みをしてもらいたい。
- ◇市内だけでなく都会で不登校になってしまった子、家族など受け入れ、自然のすばらしさと心の治癒力を高められる社会仕組みになってほしい。
- ◇小学校も中学校の様に一本化にすれば良いと思います。
- ◇制度を充実させてほしい。
- ◇近い所に3か所、1か所にまとめたほうが良い。
- ◇特認校制度を利用していても、学童保育で学校に近い所など希望する所を必ず利用できるようにしてほしい。
- ◇県外からの児童受け入れを推進し、里親を育成する。児童に第二の故郷を。
- ◇主役である子供を一番に、取り組んで欲しい。

- ◇設備投資等を、市は積極的にするべき
- ◇中学も特認校制度が必要
- ◇特認校制度により、校区外からの通学児童を受け入れている学校への助成・支援を充実化するべきである。

【制度の周知に関する意見】

- ◇とても良い考えだと思う。その学校でしか学べないこともある。もっとアピールしても良いと思う。メリットなど。就学時、前に積極的にこのようなものがあることをアピールしていくこともひとつだと思う。
- ◇1.特認校での活動を具体的にPRしてほしい。2.保護者の住所（校区）をフリーにしてもよいのでは。
- ◇義務教育の場で特定の人だけが別段の教育を受ける事に疑問を感じます。平等とは何なのか？私の意見が見当違いであるなら特認校制度が正しく市民に伝わっていないことを意味するので、見当違いなら正しく広く特認校制度を知らせる必要がある。特に義務教育を受ける子どもを持つ家庭には！
- ◇教育（勉強）がどんな状況か知りたい。利用したいとは思っている。
- ◇この制度について詳しく知らないなので、現在の利用人数など、定員に対してどれぐらいの割合で利用されているのか知りたい。
- ◇この制度を多数の方が知ることにより、子供達が増える。学校生活が楽しくなるよう希望します。
- ◇この制度をもっと色んな人に知ってもらった方がまちづくりの一環としても取り組めると思う。
- ◇市内三町どこでも子供の数は減っていくと思います。今後は制度を広く周知してもらい、又門戸も広くしていくことが大切と思います。
- ◇制度があることは知っていても、どのように希望すればよいか（窓口）がわかりにくかったりする。
- ◇制度がなかなか分かりづらいと思います。
- ◇制度を知らない人が多いと思う。
- ◇特認校制度について知らない人が多いと思うので、もっと広報することが大切かと思います。
- ◇特認校制度をもう少し広めていけたらと思う。知らない人も多いと思う。
- ◇特認校制度を利用するメリットの情報が不足しているため、利用意欲が湧かない。
- ◇認知を拡大すべき。
- ◇まだよく分かっていないが、「知りたい」とは思う。

- ◇もう少し、特認校制度が市民の方に浸透していて、利用する人が増えればいいなと思います。
- ◇もっと、学校などで聞いたりする機会がほしかった。
- ◇良い制度だと思うので、志布志市内だけでなく、大隅半島全体でも知ってもらう活動をしたらいいのかなと思う。
- ◇制度は知っているが、実際利用した事のある家庭の話など聞いたことがなく、正直必要性が感じられない。学校やイベントの中で体験者の話やもっと制度に関して周知すべきだと思う。

【通学方法に関する意見】

- ◇特認校制度の説明について：現在、人数が増え、タクシーに乗れない生徒もいますよね。現状をしっかりと伝えないと、申込しても転校を断られたり、この目的以外で転校した生徒はいないようですが、特別扱いされて転校している人もいる様なので…。人数が増えて、送迎もできなくなる位なら、募集をかける意味が分かりません。
- ◇今初めて知りました。タクシー送迎ってすごいなあとと思ったのが正直な感想です。
- ◇子供の為なのか、親の為なのか？タクシー送迎？
- ◇市街地からの小規模校への通学は、それぞれにメリットが大きく、大変良い制度であると思いますが、タクシーでの通学費全額補助は、疑問に思います。少しでも、個人負担をし、その他の保護者との公平性を保ってほしいです。その他の学校でも、通学距離が4, 5 kmあり、保護者が安全のために送迎しているからです。
- ◇自分が行きたい学校に行くのは良いが、やはり移動手段が問題である。
- ◇小規模校の利点もあるが、子ども（児童、生徒）を主に考えれば、学校統合を行い、子ども達の発育を進めるべきではないか。一部の子どもに対するタクシー送迎は疑問である。
- ◇送迎があるから利用したいという人がほとんど、自分が送迎してまでは×という人も声を聴くので、小学校へ送っていく又は迎えに行く時に誰も乗っていない（片道はいつも空席）時に地域で利用したい人などを乗せて、バスの利用価値を高めればむだもなく、又、子供たちを乗せる数も増便して、人数を増やせるのではと思います。
- ◇送迎にかかる費用を適正にした方が良い。
- ◇タクシー送迎は必要ない。
- ◇タクシーでなく、ちょいそこをうまく活用できませんか？年間の1,500万円の経費（説明会で伺いました）とどちらが良いのかオープンにしてください。よろしく願います。
- ◇タクシーでの送迎は、なぜ？
- ◇タクシーによる送迎。素晴らしいですね。

- ◇タクシーによる送迎が必要か？
- ◇タクシーの料金を市が負担はおかしい。バスなど利用したり、保護者も送迎するのがいいのではないか。通常は（ほかの学校に通う家庭は）保護者が全部責任でしている。希望する学校に行かせたいなら、保護者も通学費用を全額支払うべきである。
- ◇タクシー利用の申し込みが1月末なので、学年途中で転入などしにくい。もっと自由に、例えば1年だけ通うなど、3月末まで、3/15までなどもう少し利用しやすいようになったらありがたい。タクシー利用枠も少なすぎて申し込めない。
- ◇通学については、タクシー送迎とありますが、タクシー代は一体どこから出ているのですか？保護者負担もしくは一部保護者負担ならわかりますが、全額税金などでまかなわれているなら、自ら希望して通っているのだから特別扱いしすぎなのかなと思います。特認校制度を利用しない生徒も同様もしくはそれに変わる何か同等のサービスを受けられるのであればいいのですが、通う人しか利益を得られないサービスならタクシー送迎は不公平だなと思いました。
- ◇転入学者も受け入れ側も双方に良い影響があるのではと思う。タクシー代がどうなっているのかは知らないのですが・・・。
- ◇登下校に支障のない送迎支援に努めてもらいたい。
- ◇特認校以外の児童は長距離歩いて通学しているのに、特認校に通う児童だけタクシーで通学できるのは不平等な気がする。
- ◇特認校が特色ある校風で独自性があるのは知っている。その中で、公共交通が充実すれば郊外であっても生徒数が増えるのではないかと思う。コミュニティバス又は通学バスへの援助はどうか。
- ◇特認校制度自体には賛成。タクシー代は全額又は大半の額保護者負担で良いと思う。他校（一般校）に通う保護者は自ら送迎をしているので。
- ◇特認校制度はとても良いと思います。でも何故送迎がタクシーなんでしょうか？
- ◇特認校制度を受け入れている学校の許可条件として、保護者による送迎または公共交通機関（バス、ちよいそこ）としている学校が多数である。子供たちの安全を考えると、保護者送迎が好ましいように思う。1つの学校から1年生1クラス分程の子供たちが特認校へ転入している。これから少子化が進むことが予想されるため、転入学者の募集人数も配慮が必要ではないか。可能であれば、地域の中学校へ進学して学んだことや経験したことを発揮していただきたいと思います。
- ◇他の学校へ本人の意志が反映されているか？である。登下校のタクシー送迎が良いとは思わない（本人の為に）
- ◇良い制度だとは思いますが、市がお金を出してタクシーで送迎してあげる必要があるのか。本当に小規模校へ通いたいのであれば、親が送り迎えをするべきでは。
- ◇良い取り組みだと思うが、タクシーの送迎のお金はどこから出ているかによります（個人負担なら問題なし）。

- ◇希望者が通学するという事で、送迎を市が補助しなければならない理由を知りたい。
- ◇交通手段も確保されていて、希望すれば利用出来るというのは良い。
- ◇需要があるのに、スクールタクシーが足りずに通えないのは矛盾している。それぞれの地域が地域の学校を守ろうと懸命に努力しているので、市の支援をお願い致します。
- ◇通学が便利だからという理由だけで制度を活用することがないようにしてほしい。
- ◇良い取り組みだとは思いますが、送迎や勘違いの方もいたりするので、きちんとした整備は必要だと思う。

【対象者の範囲に関する意見】

- ◇有明町内も早く進めるべき。
- ◇大きな小学校からだけ田之浦、潤ヶ野へ転学、入学できるのではなく、小さな小学校へ通学している子も、例えば「いじめにあって学校に行きたくない」と言っている子、「不登校」になっている子、子供本人とその保護者が望めば、潤ヶ野、田之浦へ転入できるような「一定の要件」の範囲を広げてみてはどうか？と思いました。私も小学生の子供がいますが、義務教育間はちゃんと学校へ行ってほしいが、それができなくなった時、「ここはだめでも、こっちでもいいんだよ」と言ってあげられるような選択ができれば、またちがうのかな？と思ったりもします。
- ◇大きな小学校区に住所を有する人以外でもいいのでは？
- ◇子どもの特性や個性に合うならば、どこで学んでもかまわないと思います。むしろ子供の個性をおさえずに尊重してあげるべき。保護者の住所を限定する必要はないと思います。
- ◇市外からの児童を増やす（都市部からとか）。
- ◇小学校区を限定するのは、区外の人と不公平
- ◇上記の学校以外も志布志市内のどの学校でも他県からの（県内）受け入れをし、これからの子供たちが学びやすく、楽しい日々を送ってほしい。
- ◇転入学の保護者の住所を特定しない。県外、他町村からも受け入れることなどはどうでしょうか？
- ◇特認校制度だけではなく、志布志市内の学校ならどこでも選べるようにしてほしい。
- ◇何故志布志町だけなのか？
- ◇学区の縛り外の地域なので興味がない

【制度の見直しが必要とする意見】

- ◇いじめで校区外に行っていたと聞きました。良い制度だと思いますが、根本的に見直す時期では？
- ◇今の特認校は、何らかの障害を持った子供達が多いと思う。本来の目的から外れている

ように感じる。

- ◇志布志市全域が自然豊かな環境の為、特にこの制度のメリットが感じられません。
- ◇地元に住んでいない子どもたち、どうなのでしょう。存続させる手段ではありますが。
- ◇潤ヶ野・田之浦・森山の小学校の校区内に子どもがいなくなるような事があれば、この制度はどうなるのか。
- ◇小学校の頃は親の意向が強いと思うので、本人の為をよく考えて入学させて欲しい。近所の例ですが、安楽、香月、志布志、各小学校で過ごしていました。現在、大人になった子ども達、ほとんど交流していないように思います。
- ◇小学校の存続は地域社会と密接な関係があり、廃校をしないための苦肉の策である事が伺える。小学校の維持と財政負担のバランスをみながら存続を考える必要があると思う。
- ◇小規模校を子供に行かせたいなら、そこに住めば良いと思う。子供だけ、校区外の考えは分からない。メリット・デメリットあると思うが、親次第だと思う。
- ◇特認校への通学が希望ではなく、児童増の為（学校存続の為）に行かされている気がする。
- ◇もし、特認校に児童がいなくなったらその学校はどうなるのでしょうか。

【否定的な意見】

- ◇今はそこまでしないといけないのかなあ。
- ◇現行の制度は、休校、廃校の引きのばししかならず、発展性が見えません。市内の全小・中学校に導入することで、各学校において特色ある学校づくりにつながると期待します。
- ◇根本的な解決にはならない。統合して密度の濃い教育を実施した方が子供達の将来には効果がある。交通手段の確保が必須である。
- ◇小規模校はできるだけ統合してください。スクールバスなどで通学することが望ましい。
- ◇税金のムダ。廃校にするべき。いつまでもそういう人たちの意見を聞いているからダメ。
- ◇制度は廃止し、旧町ごとに1小学校、1中学校に統合すべき。
- ◇その地域のためには必要だと思うけれど、その子が今後住所地で生活するために必要なのはあまりよくわからない。ただ、少人数教育は素晴らしいと思う一方、小学校の統廃合はどこかの時点で考える必要はあると思う。
- ◇多額の費用を使い、小さい学校を維持しないといけない理由が分からない。今行っている理由としているものは、どれも説得力に欠ける。代替の手段で行える。
- ◇統廃合を含めて、全体的な市の学校の在り方を行政が中心になって検討すべきである。
- ◇長い目で見ると、無駄のようにみえる。地元の子で、学校が成り立つように施策を考えるべき。
- ◇必要ないのではないか。

- ◇複数校は必要ない。経費も莫大にかかる。
- ◇別になくてもいいと思う。
- ◇無駄だと思う。
- ◇無駄だと思う。税金を他に使わなければいけないことはありませんか？1校だけで十分ではないですか？
- ◇特に必要性がない。小学校等児童が少なくなれば、学校を貸し出すなどして財政収入にしたほうが良い。
- ◇複数は必要ない。1箇所(校)で運営すればよい。

【小規模校のデメリットに関する意見】

- ◇子供の将来を考えると、少人数より多人数での学習や運動の方が子ども達の可能性を広げてあげられそうな気がする。自然の中で過ごせることはとても素晴らしいことだと思う。
- ◇児童は大勢の中でもまれることも必要。社会に出てから自立できないのではないかと懸念する。
- ◇地元の学校に通った方がいい時もあると思う。だけど子どもの為となると、大きな学校の方がいいのかも。
- ◇社会勉強の面からは多人数で教育を受けた方が良いと思う。
- ◇小学校4年生位までは、自然環境の中で地域文化に親しむことが大切だと考えます。しかし、高学年になると学力が心配になります。
- ◇全国から集まるので良い事だと思いますが、戻った時の学業レベルについていけるか疑問です（PCなど）。
- ◇保護者の要望であまりに小規模の小学校は、生徒がかわいそうな気もします。自然にふれるなどのメリット、そして、デメリットをよく検討する必要があると思います。

【上記以外の回答】

- ◇時代の流れを感じます。
- ◇数年前は「行かせたい」と考えたが、学年が上がるにつれて、周りの友達関係が出来ているので、離れさすのがどうかなと思い、いまだ迷っている最中です。とても魅力的で親としては良いことだと思っています。
- ◇特認校でも「いじめ」が起きている。
- ◇特認校への通学について、認定の基準が分からない。
- ◇どの学校に行こうとも、人としてのマナーを守れる思いやりのある人間に育ててほしいですね。

- ◇初めは親の価値観に基づいた選択だと思われるので、遠距離通学等、子供のストレスは無いのか、と想像する。"特別感"が芽生えないのか？中学で地区になじめるのか？
- ◇学びたい児童にとっても、児童数が足りなくて、廃校になってしまう危惧のある学校にとっても、とても良いことだと考えます。他にも特認校として、児童の受け入れを希望する学校があれば特認校として扱われるのだろうか、条件があるのだろうか。
- ◇個人の要望に応えることが出来、良い面もあるが、本当にその必要があるのか見極めることが難しいこともあるのではないか。
- ◇校風、環境を知りません。
- ◇子どもたちにとっては良い環境になっているが、現場の先生たちの負担が大きくなっていないでしょうか。
- ◇少子化の問題は、制度とかの前にはまず子育て世代が移り住んでこない、他の市にでていくことご原因だと考える。どんなに良い制度があっても住みにくい街であったら、人は来ず高齢者だらけの街となる。
- ◇少人数の中でしか特徴を活かせない子供にとっては非常に良い制度だと思う。しかし、10年20年先、その学校や地域をどうしていくか？真剣に考えているとも考えづらい。
- ◇田舎でしか味わえない経験、教育を受けれる事はいいと思うが、できれば、その土地に移住して活性化をはからないと、過疎化がどんどん進んでいくと思う。移住支援金を増やしていけたらいいのでは？
- ◇私の子供は2人特認校制度でお世話になりました。初めての時でしたので、お互いに学校、地域、いい所悪い所ありましたね。
- ◇よくわからない 8件